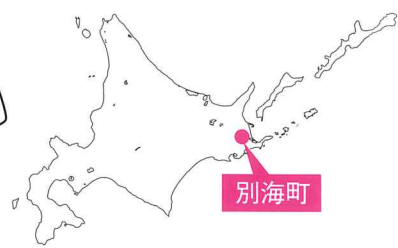




酪農家を目指すみなさまを全力応援！

生乳生産日本一[👑]

べつかい



交通アクセス

- 東京から
 - ・東京(羽田空港)→(飛行機約100分)→根室中標津空港→(バス約35分)→別海町役場
 - ・東京(羽田空港)→(飛行機約90分)→釧路空港→(バス約45分)→釧路駅→(JR約100分)→厚床駅→(バス約30分)→別海町役場
- 札幌から
 - ・札幌(新千歳空港)→(飛行機約50分)→根室中標津空港→(バス約35分)→別海町役場
 - ・札幌(札幌駅)→(JR約230分)→釧路駅→(JR約100分)→厚床駅→(バス約30分)→別海町役場

酪農に関するお問い合わせ・ご相談の窓口
(新規就農・酪農研修・雇用・酪農ヘルパー・実習等)

(有)別海町酪農研修牧場	〒088-2576 北海道野付郡別海町西春別347番地63	TEL.0153-77-1050	http://betsukai-kenboku.jp/
(株)なかしゅんべつ未来牧場	〒086-0654 北海道野付郡別海町中春別170番地1	TEL.0153-76-1230	-
JA道東あさひ	〒086-0214 北海道野付郡別海町別海緑町116番地9	TEL.0153-75-2201	http://ja-doutousahi.or.jp/
JAなかしゅんべつ	〒086-0652 北海道野付郡別海町中春別南町3番地	TEL.0153-76-2311	http://ja-nks.jp/
JAけねべつ	〒088-2682 北海道標津郡中標津町計根別本通東3-17-1	TEL.0153-78-2111	http://ja-kenebetsu.com/
北海道別海高等学校 (農業特別専攻科)	〒086-0214 北海道野付郡別海町別海緑町70番地1	TEL.0153-75-2053	http://www.bekkai.hokkaido-c-ed.jp/

事務局/別海町役場 産業振興部 農政課(別海町担い手支援協議会)
 〒086-0205 北海道野付郡別海町別海常盤町280番地 TEL.0153-75-2111
 ✉ E-mail : nousei@betsukai.jp



別海町酪農研修牧場



betsukai_kenboku



家族の時間を 大切に生きる、 酪農家の暮らし。

酪農王国といわれる北海道。

その中でも、ひとつの町で10万頭を超える牛が飼われているのは、
別海町だけです。

生乳生産量日本一の町には、

牛にも人にもやさしい“大自然”と、

仕事も子育ても助け合う、“地域の絆”があります。

家族の時間を大切に生きる酪農家の暮らしを

別海町ではじめてみませんか？

あなたはどのタイプ？

タイプA



夫婦で酪農家を目指す！

タイプB



近い将来、酪農家に！

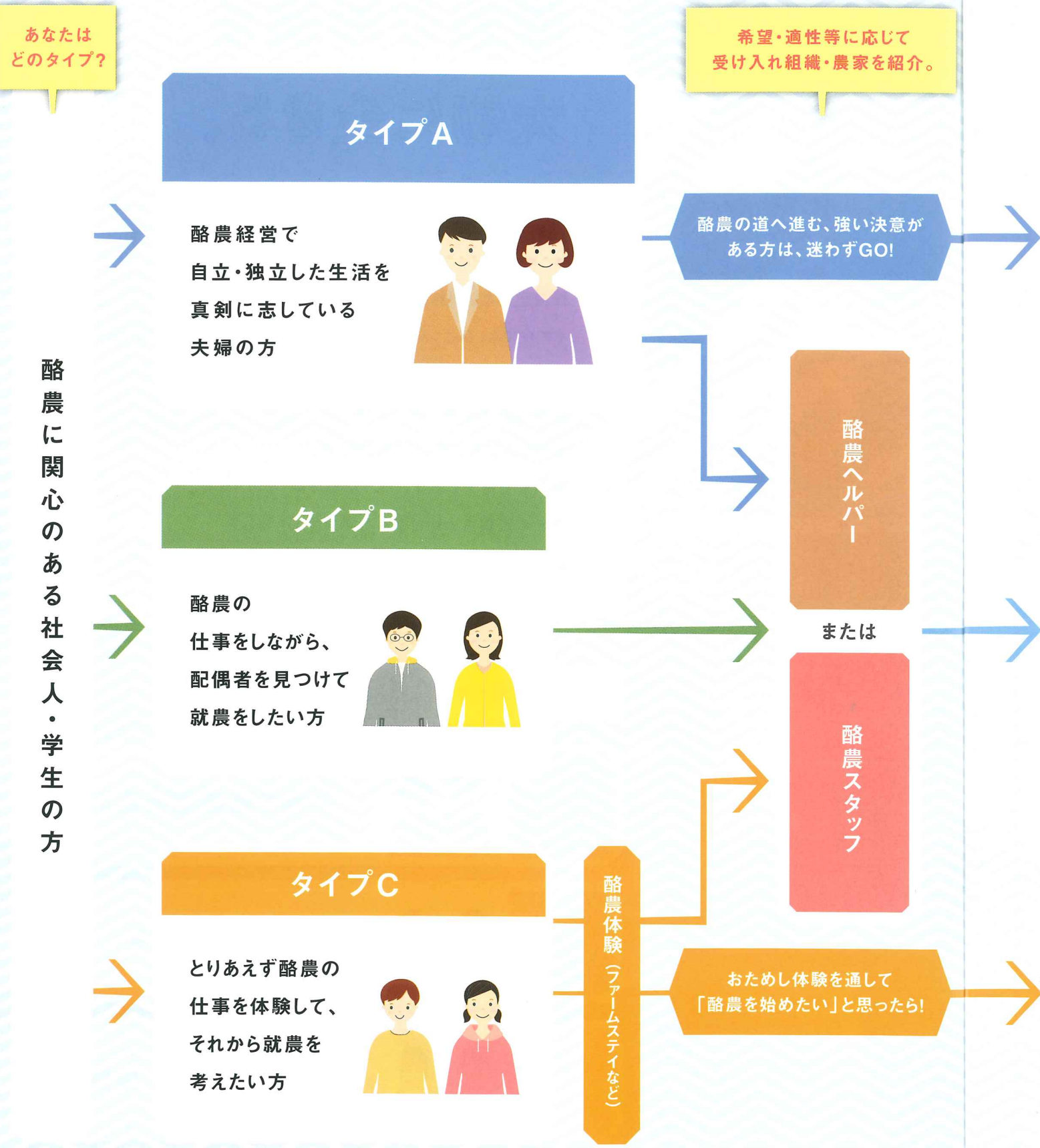
タイプC



まずは、おためし体験！

別海町で酪農家になる。

夫婦・家族で酪農に取り組むことを基本に、就農前も、就農後もしっかりサポートします。



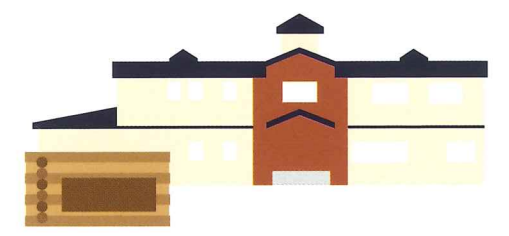
酪農ヘルパーとは?
酪農家が休みをとる際に、酪農家に代わって、搾乳や飼料給与などの作業を行う仕事に従事する人。試用期間(約6カ月*)後、ヘルパー利用組合にて雇用。*JAによって異なります

酪農スタッフとは?
牧場の従業員として雇用。搾乳、子牛の哺乳、牛舎管理など牧場作業全般を担当。雇用形態、勤務時間は受入先の牧場により様々。寮・社宅完備のところもあり。



研修手当(月額生活費)をもらいながら3年間酪農の知識と技術を学ぼう!

(有)別海町酪農研修牧場



3年間のカリキュラム

酪農経営に必要な知識、技術の修得を図るため、地域の営農の実態に即した研修を実施。研修期間は、原則3年間。ただし、酪農経験がある又は力量の程度により研修期間を調整(短縮)。

〔1年目〕 基礎知識・技術の修得期間
酪農経営の概要及び年間の作業構成の把握並びに乳牛の飼養管理と農業機械操作の修得等

〔2年目〕 基礎知識・技術反復及び応用技術養成期間
家畜の飼養管理、農業機械の操作のほか、飼料の収穫調製、家畜疾病の対応・予防技術の修得等

〔3年目〕 経営技術養成及び就農準備期間
就農に向け、より主体性を持たせた中で、家畜の使用管理、農業機械の操作、家畜疾病の対応・予防、経営全体の把握等その他、農家研修等を含む就農準備(就農時の計画作成、事業申請等)

別海町・JAなど万全のサポートをお約束!

いよいよ新規就農!

一般的な新規就農者の一例※(新規就農5年目頃)

項目	数量
経産牛頭数	60頭
年間出荷乳量	約500t
農地面積	約60~70ha
収入	約5,000万円/年
農業所得	約1,300万円/年

新規就農者の経営支援及び子育て支援に各種制度をご用意しています

助成金

安心して新規就農ができるよう助成金を交付します。

- ①農業次世代人材投資資金 150万円×最長5年間(国)
- ②就農奨励金として 300万円(町)+300万円(JA)
- ③リース料への助成 上限100万円×3年間(町)
※1年間のリース料(参考)280万円
- ④固定資産税相当額への助成 上限25万円×3年間(町)
- ⑤住宅等の改修費用への助成 上限100万円(町集落)
- ⑥牛の導入費用への助成 上限150万円(町集落)

※そのほかJA等による助成制度あり。

融資制度

【青年等就農資金】
農業経営を開始するために必要な資金を長期、無利子で貸し付けます。

- (1)貸付対象者：認定新規就農者
- (2)資金用途：施設、機械の取得等(農地等の取得は除く)
- (3)貸付限度額：3,700万円
- (4)貸付利率：無利子
- (5)償還期限：12年以内(据置期間5年以内)
- (6)担保・保証人：融資対象物件以外の担保及び第三者保証人は不要
- (7)貸付主体：(株)日本政策金融公庫

子育て支援

- ①町内の地域ごとに、保育園又は幼稚園を開設。(必要に応じ時間延長の支援)
- ②通学支援
・小～中学生/町スクールバスによる送迎
・高校生/定期バスを運行

研修生インタビューは7ページをチェック!

酪農家の先輩インタビューは9～13ページをチェック!

研修から新規就農までトータルサポート



別海町酪農研修牧場

“酪農を志す”その思いが芽生える機会は、どんな立場の人にも訪れるかも知れません。
夫婦の新しい人生、本当にやりたい事が見つかった時、社会に旅立とうとする瞬間、そんな様々な思いを受け止める
多様性が別海町酪農の目指す姿です。



研修期間

- 原則3年間となりますが、経験がある方や力量の程度により研修期間を調整(短縮)します
- ◆1年目 酪農の基礎的な知識・技術・作業全般を習得します
 - ◆2年目 専門知識・応用力の習得並びに自立可能な経営能力を養成します
 - ◆3年目 農家研修等を含む就農準備全般を行います

酪農研修生の待遇

- ◆身分 酪農研修生は、(有)別海町酪農研修牧場の職員になります
- ◆研修手当(生活費) 月額183千円(夫婦で366千円)を支給 ※手当などは無し
- ◆社会保険等 健康保険・厚生年金・労働保険等完備、作業着等貸与規定あり
- ◆住宅 夫婦用(2LDK)・独身者アパート 月額30,000円で貸付
- ◆研修作業時間 3時30分～18時00分(実働8時間程度) ※農繁期は調整あり
- ◆休日 4週4休(牧場規定・規則に準じます) ※農繁期は調整あり

研修・宿舎

- ◆研修施設/研修館(事務所等)・第1実践牧場(タイストール牛舎 60頭)・第2実践牧場(フリーストール牛舎 155頭)
- ◆研修生宿舎/2棟6戸・独身者アパート(6室)

研修プログラム	内容
①実践研修	乳牛飼養管理、搾乳、仔牛管理などの研修作業全般
②座学研修	基礎的な知識・方法などの理論学習(週1回程度—専門家による講義)(乳牛飼養管理全般、家畜衛生、搾乳、草地管理、農業経営など)
③特別研修	入所時にトラクターの運転免許がない方については、大型特殊免許(自己負担)を取得し、牧場内期間作業・草地管理作業・牧草収穫作業等を実践併せて、トラクター・作業機の点検及び保守管理を実践
④農家研修	研修中に農家研修が必要と思われる方については1年程度の派遣研修を実施
⑤酪農ヘルパー研修	就農に向けて様々な経営を幅広く研修するため、必要に応じた体験研修として実施
⑥視察研修	地域の農業事情等を幅広く把握するため、必要に応じ農家又は農業関連施設等の視察研修を実施

受入れ条件

- ◆おおむね40歳未満までの夫婦またはパートナーのいる方、及び18歳以上30歳未満の独身者の方
- ◆研修終了後、町内で就農あるいは酪農関連業務に従事する方

研修スケジュール

- ～1年間の研修作業(農場管理—家畜飼養管理を除きます)～
- ◆4月 入所式、基本作業の訓練
 - ◆5月 草地維持管理(肥料散布)・環境整備
 - ◆6月～7月 一番草収穫、草地維持管理(肥料散布・尿散布)・環境整備
 - ◆8月～9月 二番草収穫
 - ◆10月～11月 草地維持管理(堆肥散布・尿散布)・環境整備



つなぎ牛舎で行われる作業(搾乳、給餌、除糞、仔牛管理等)



夜の牛舎見回り(乳牛管理状況確認作業)



トラクター・大型作業機の点検及び保守管理を実践



一日の研修作業終了時に行われるミーティング



カーフハッチでの哺育作業(ミルクヤリ)



ミルクパラーでの搾乳作業(第2実践牧場)



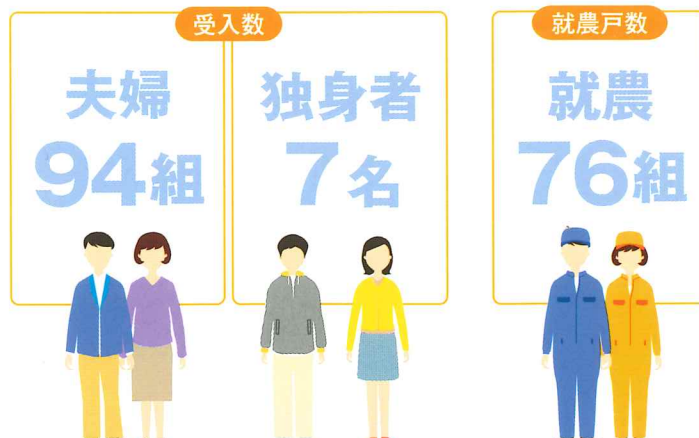
基礎的な知識・方法などの理論学習(週1回程度—専門家による講義)



育成舎での給餌作業

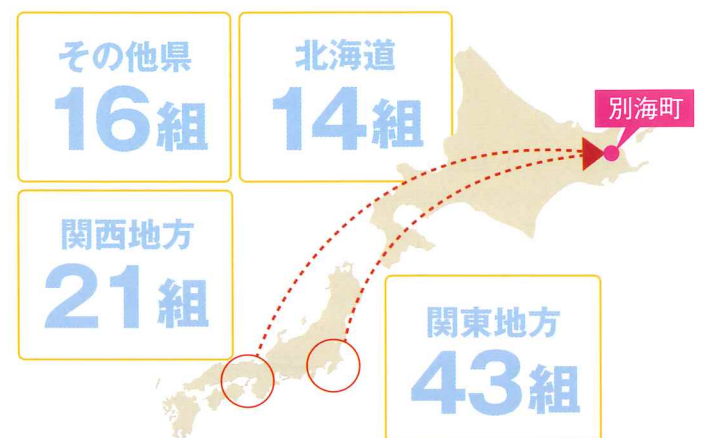
新規就農実績 H9～H30

研修牧場に入所した研修生の72組が新規就農を実現しています!



研修生の出身地 H9～H30

全国各地より、酪農家を目指す先輩達が、研修牧場で学んでいます!



小田夫婦

小田潤一さん（埼玉県出身）
由美さん（埼玉県出身）

関東圏で一流企業10年以上勤務のサラリーマンから転身

自分が納得したものを作って自ら売る。
そのシンプルな生き方に憧れて。



Q & A

Q 研修牧場を知ったきっかけは？

A 地方、田舎で生活をしたいと考えてようになってからインターネットで検索をして知りました。東京で開催された農業人フェアのイベントに参加して、より詳しく知ることが出来ました。

Q 酪農家を目指してからどのくらいで別海へ？

A 約1年くらいです。その間に、一度研修牧場の見学に別海に足を運びました。

Q 酪農家への転身について家族の反応は？

A 妻に話をする前に、まずは自分で調べに調べて、用意周到に準備をしました。妻に最初に話した時はあまり本気と思ってくれず、何度も話したのですが平行線をたどり、最終的には子ども達が賛成してくれたことが妻の背中を押してくれました。

Q 研修生としての生活費は？

A 夫婦で30万円です。敷地内に家族用の住宅があり、賃料はひと家族月3万円です。決して余裕のある生活ではありませんが、お給料をいただいてさらに、酪農全般に関することも教えていただける。就農を目指すには素晴らしい環境だと思います。

Q 休日や家族と過ごす時間は？

A 基本的には4週4休で、1日の作業時間は朝4時00分～18時15分までの間で実質8時間程です。休日は、出来るだけ土日になるように調整して、子どもたちと一緒に釧路などドライブに出かけたりして道東の大自然を満喫しています。

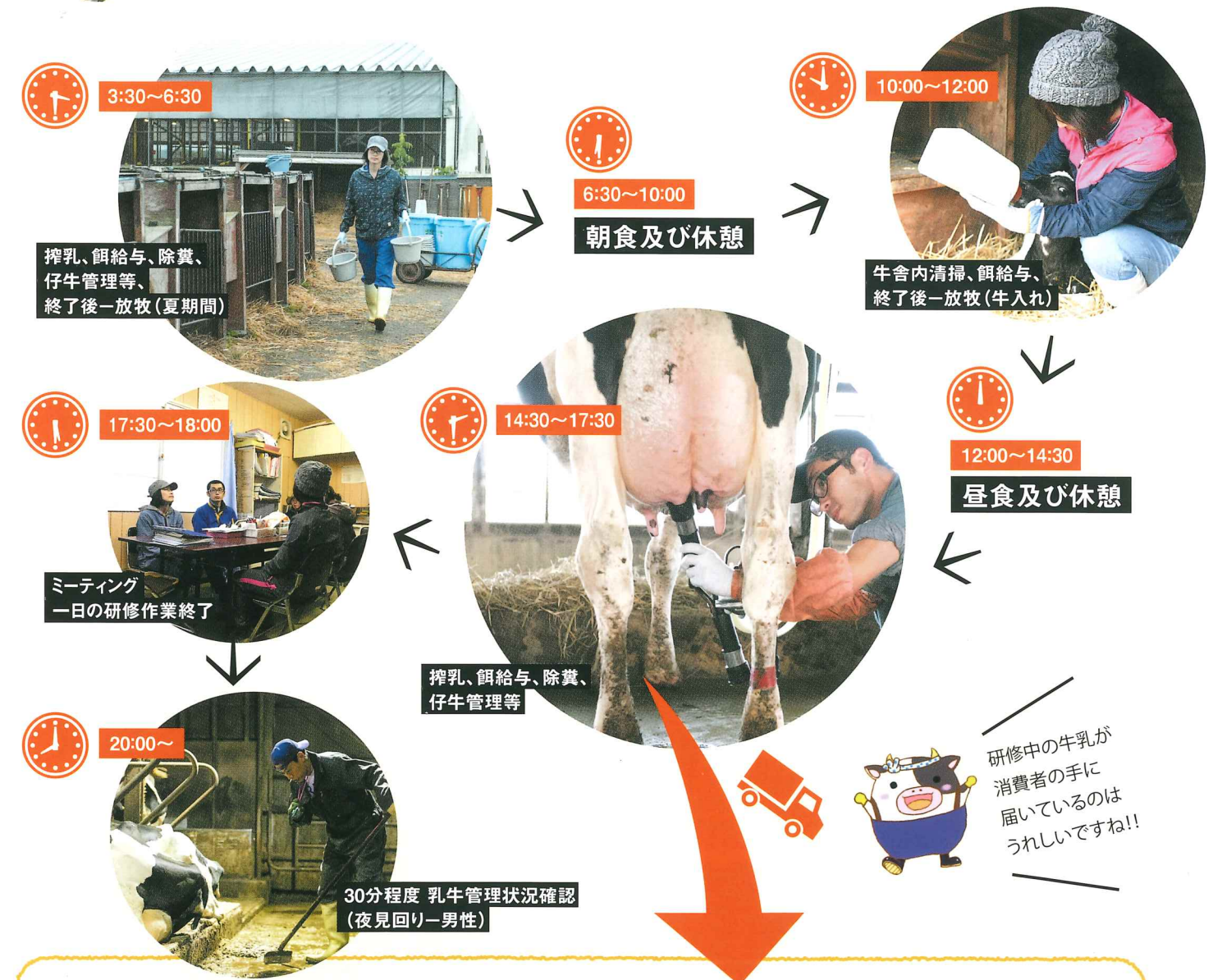


将来は牛たちが僕たちの牧場に来て
良かったと思える環境を作りたいですね。



僕は、会社員生活に疑問を抱くようになって今後の人生を考えた時に、酪農を仕事に出来ることを知り、どんだのめり込んでいきました。最初は賛成していなかった妻も、今では牛たちがかわいくしょうがないと(笑)。いつまでみても飽きないし、日に日にかわいさが増すとまで(笑)。就農にあたってはこんな牧場にしたいという夢がありますが、かわいい牛たちが自分の牧場に来て良かったと感じてくれる環境を作り上げていくことが一番の目標です。

「研牧」の1日に密着



研修生が搾った生乳は、「べつかい乳業興社」で製品化し、
消費者の皆様へお届けしています。

別海町の酪農の入り口である研修牧場で研修生が搾った生乳は、すべて「べつかい乳業興社」へと出荷し、牛乳はもちろんヨーグルトやチーズなど様々な乳製品として道内外の消費者へ届けられています。

〈製品一例〉



(株)べつかい乳業興社

牛乳の消費拡大と町民の健康増進、体力向上を図ることを目的に平成14年4月1日より(株)べつかい乳業興社としてスタート。乳製品の加工施設を建設し、安全で良質な乳製品の提供とともに、別海ブランドのイメージ向上やコストの低減を図り食文化創造の拠点づくりの場として活動しています。

杉本牧場

夫婦で新規就農し、今や大家族の酪農一家に。

家族愛、酪農愛、地域愛にあふれた家族の酪農。

杉本光啓さん(東京都出身)
美由紀さん(標津町出身)



毎朝の日課、家族全員と愛犬でスクールバスのお見送り



声をかけながら、つなぎを外し放牧へ

朝の放牧を終え、牛舎の清掃

牛舎から毎朝放牧

牛たちにとってストレスのない快適な牛舎を整備

牛の状態を確認しながら、朝の放牧準備

夫は東京生まれで、会社勤めをしていました。その後、特に酪農をしたいという訳でもないのに、アルバイト情報誌を見て別海にある牧場で農家実習をしたのが酪農との関わりの始まりです。その後、3年間、酪農ヘルパーをしているうちに、「本気で酪農をやりたい」と、研修牧場に入りました。研修牧場は1年で修了しました。私とは、ヘルパー時代に知り合い結婚しました。

新規就農は、後継者がいないため離農する酪農家さんの牧場をそのままの状態譲り受け、すぐに営農を始めることができました。酪農の仕事は、牛の健康を守り、良い乳をしぼることだけではありません。朝は早くから働き、想像以上に体力が必要だし、電気や水道、機械の修理の知識も必要です。家族の協力がなくて絶対できません。私たちには4人の子供がいますが、早くから自分たちで役割を分担して仕事を手伝ってくれます。家族、牛、地域に愛着を持って暮らしを育む。これこそ酪農の一番の楽しみです。



[Profile] 標津町出身。酪農家の娘として生まれ、実家は弟さんが継ぐ。1男3女の母。

佐藤牧場

べっかい生まれの三代目は、自他共に認める「牛好き」

奥が深い酪農の世界に飽きることがない、牛好き三代目の静かな熱意。

佐藤 悠さん(別海町出身)
瑠依さん(大阪府出身)



見渡す限り広がる、広大な面積の放牧スタイル



時間があれば牛を眺め愛情を注ぐ

朝と午後に行う牛舎内作業

好奇心はあるが体に似合わず臆病な牛の気質

自然にふれ、牛たちにふれる子育て環境

勢い良くあつという間にミルクを飲み切る子牛

妻とは2010年の「菊と緑の会」で知り合った翌年に結婚し、今は4歳と1歳の息子に恵まれました。妻は北海道に縁もゆかりもない大阪育ちなのですが、偶然にも私の父も兄も大阪の女性をお嫁さんにもらってまして(笑)。別海町の子育て学級などにも顔を出し、ママさん同士のネットワークも出来たようで、大阪時代と違って無理にがんばりすぎることなく、自分らしくいることが自然体で出来ているみたいですね。私は、牛は見ているだけでも飽きることはないのをついつい時間をかけすぎてしまうのですが、子供達との時間をつくれる様、搾乳ロボットなど省力化を図る環境整備に取り組みしていきたいと思っています。

『菊と緑の会』

友好都市の枚方市から別海町に嫁いだ女性が、里帰りの際に枚方市役所を訪問し、「酪農の楽しさと後継者の不足」を訴えたのがきっかけとなり、昭和59年に初めての交流会となる「菊と緑の会」を開催。酪農青年と独身女性の交流会は毎年開催され数多くのカップルがゴールインしています。



[Profile] 別海町出身。昭和28年に入植した先代から数えて三代目。札幌での会社員生活を経てUターンで実家に戻り酪農を継ぐ。2男の父。

森重牧場

森重 信洋さん（別海町出身）
陽子さん（仙台市出身）

べつかい生まれの三代目が切り開く『次世代酪農スタイル』

最新テクノロジーをいち早く取り入れ、
新たな可能性にチャレンジ。



2007年に新築した最先端の大型牛舎で森重家族3世代



1時間に1回作動する、エサ寄せロボット

朝一番の作業
前日のデータをパソコンでチェック

家族で牛を育てる、自然と生きる子育て環境

乳頭を自動で検知し、搾乳機をセット

搾乳ロボットに自分で入る牛たち

2007年に補助事業を活用して、牛舎を新しく建てかえたことをきっかけに、搾乳ロボットを2台導入し、今までのやり方とは違う新しい取り組みをはじめました。牛床清掃装置や、エサ寄せロボット、哺乳ロボットなど出来る限り省力化を図れるよう、徐々にではありますが環境を整えています。毎朝5時に起床し牛舎にある事務所へ行き、まず最初にパソコンの管理画面をチェックします。前日までの数値がすべて見れますので、計画通りに進行しているかを朝一番の仕事として行っています。今では、ロボットのおかげで夜の作業は、ほぼ自ら牛舎に出ることは無いですね。今後もさらに省力化を進めていき、規模を拡大することでスタッフの雇用も行うなど、積極的に新しいことへチャレンジしていこうと考えています。省力化によって生まれた時間は、子供達や家族との時間に使うのももちろんですが、農協青年部の活動にもあたたいですね。自分たちの世代が中心となって、地元の保育園などで行っている、酪農を通じた食育活動を広げていきたいです。まわりの若い酪農家たちも、別海の町と牛がやっぱり好きなんですよ（笑）。



[Profile] 別海町出身。酪農家の8人兄弟の長男。酪農学園大学卒。2男1女の父。農協青年部や乳牛改良同志会などの活動も積極的に行う。

河崎牧場

河崎 崇さん（大阪府出身）
弘子さん（根室市出身）

手作りチーズを作り始めた6次産業化の先駆け

放牧中心の酪農スタイルを貫き、季節ごとに変わる
生乳の特徴に合わせて作るハンドメイド・チーズの魅力。



入植時から変わらない放牧スタイル

2004年に、自分の手でチーズがつくれるとわかった時には、家族みんなが、おいしいチーズを作ろう、と大いに盛り上がり、工房まで作ってしまいました。今は、さけるチーズ、カチョカバロ、ゴーダの3種類を作って販売しています。チーズを作るというのは、乳質にすぐ気を使うこと。牛の健康はもちろん、牧草から牛舎の状態、搾乳に至るまですべてに気を使わなければおいしいチーズはできません。家族みんなが同じものを見て、おいしいものを手作りして、仕事や暮らしを楽しむことができる。これはすごい贅沢なことだと思うし、酪農をやっていて一番良かったなあと思えることですね。



季節で変わる生乳に合わせて手作りチーズ



高品質の生乳だけがチーズになる



チーズは食文化。だから食べ方にもこだわる。

山口牧場

山口雄司さん（神奈川県出身）
裕子さん（神奈川県出身）

教員から転身。2年で研修牧場を卒業してスピード就農。

自然の中で、生きものたちにふれて
人生を紡ぐことの素晴らしさに魅せられて。



飼育牛は就農時の3倍に



朝4時と夕方3時の2回の搾乳が日課



地域の酪農家たちの支援に支えられて

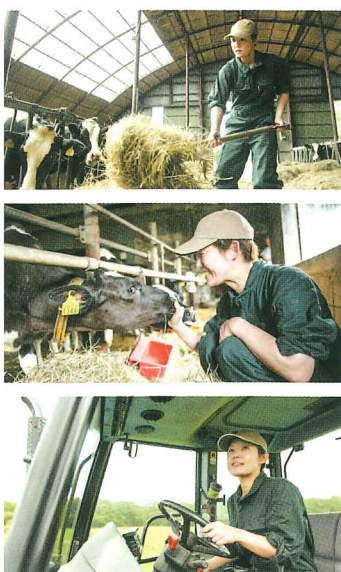


幅広い作業内容も酪農の楽しさ

東京の小学校に勤務していた頃から、農業に興味をもっていました。農業は親から受け継ぐもの、中でも酪農は、生きた牛を相手にするだけに、素人には難しく、初期投資も大きい等、新規就農は難しいと考えていました。しかし、調べてみると、別海町には町営の研修牧場があり、1人前の牛飼いに育てて就農を支援してくれることを知り、妻の賛同も得て別海町に移住したんです。研修牧場を2年で卒業し、周りの人たちのサポートのおかげで順調に就農することができ、牛40頭から始まった酪農人生は、今では約120頭に増え、楽しみながら第2の人生を歩んでいます。

女性が輝く酪農のまち、べっかい。

女性酪農家さんインタビュー



私らしく。女性らしく。女性後継者という選択肢を持つ人が、もっともって増えてほしいですね。

新規就農はもちろんですが、農家の娘だとしても、「結婚して夫が主体になって継ぐ」という人が多く、「女の子本人が経営する」というのはあまりないんです。確かに、女の子が牧場をやっていくってのは、生き物相手ですし、難しいことなんです。でも、機械化をしたり、よく考えればできることなんじゃないかなって思っています。実際に、私がいつまでも若々しく(笑)、情熱を持って後継者として頑張っていくことで、「私が農家を継ぐ!」という女の子が増えてほしい……。「農家の後継者になるのは娘」という選択肢を持つ人が、もっともって増えてほしいなって思っているんです。それが、私の目標です!



株式会社mosir
小林牧場
小林晴香さん

[Profile] 別海町出身。中西別地区で酪農業を営む。2008年、酪農家の後継ぎとして実家にUターン。農業女子プロジェクトに参加。

女性スタッフさんインタビュー



まったくの未経験だった私も、周りのサポートのおかげで1年で牛舎の仕事ができるようになりました。

大阪で勤務していた会社の同僚の方から「菊と緑の会」を教えてもらい、別海町の3泊4日ファームステイに参加したのがきっかけです。チーズ作りやソーセージ作りを体験したり、夕焼け空や星空の美しさに感動しました。その後、女性専用住宅(アクティブハウス)等の支援の充実もあり、スタッフになりました。最初は、何ひとつわからなかった酪農の仕事も、研修先の酪農家の方たちに教えてもらいながら、いまでは力仕事もこなせるようになりました。



陽川みな美さん

[Profile] 広島県出身。大学卒業後2年間、大阪の会社事務員を経て、酪農スタッフに。



同業からの転身も、やりがいのある仕事内容と人のあたたかさに驚きと感動の毎日に充実しています。

奈良で酪農の仕事をしていた時、別海町と姉妹都市の枚方市に住んでいる母の友人から「菊と緑の会」主催のファームステイをすすめられ、はじめて別海に来ました。広い土地に放牧されている牛の群れを目にし、感動したことを覚えています。JAさんの熱心なすすめもあり(笑)、スタッフになりました。こちらに来て、空気がきれいなのか、持病の喘息もほとんど出なくなりました。これからの目標は、別海町で良き伴侶を見つけて永住することです!(笑)



加藤博子さん

[Profile] 三重県出身。奈良の農業生産法人で酪農に従事後、酪農スタッフに。



べっかい くらし

空に、海に、大地に、生命(いのち)の恵みが輝き、人口よりも牛の数が多い、ゆったりとした時間がながれる別海町。別海町は、北海道の東部、根室管内の中央部に位置し、町名は西別川の河口が大きく曲がっていることに由来する、アイヌ語の「ペツ・カエ(川の折れ曲がっているところ)」が語源といわれています。



べっかいの特産品

別海町の基幹産業は「酪農」と「漁業」。別海には、日本一の生乳生産量を誇る乳製品をはじめ、大きくて甘い「野付のホタテ」、明治時代からの伝統漁法で漁をする「北海シマエビ」、かつて徳川幕府に献上していた「西別鮭」など、ブランド価値の高い食材が豊富です。



乳製品

ソフトクリーム

別海ジャンボ
ホタテバーガー

ホッカイシマエビ

ほたて

西別鮭

